

第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	ランチョンセミナー 一般演題口演(優秀演題)
タイトル	市町村単位の在宅医療多職種連携研修会を受講した開業医の意識変化 ～8.0日版と2.5日版の比較を含めた検討～
日時	平成25年3月31日 12:50～13:00
会場	第6会議室
座長	城西神経内科クリニック・石垣泰則先生
演者	東京大学高齢社会総合研究機構 吉江悟先生
企画趣旨	<p>【目的】市町村を開催単位とする在宅医療多職種連携研修会を受講した開業医について、受講前後の意識変化等を評価することを目的とした。</p> <p>【方法】2012年3～4月に、在宅医療に携わる開業医を増やし、地域における多職種の連携を促すことを目的とした計2.5日間の在宅医療多職種連携研修会（以下、2.5日版）を開催した。本研修は、①同一市内の多職種を受講対象とする、②医師会等地域の関係団体の推薦により受講者を選定する、③多職種討論が研修内に意図的に盛り込まれている等の特徴をもつ。2011年に開発・試行した8.0日間の試行研修（以下、8.0日版）を、受講者評価に基づいて短縮、再構成したものである。評価は受講前・直後の自記式質問紙により行い、在宅医療に対する意識（「関心」、「実践する意欲」、「やっていけそうだと思うか」、「具体的イメージをもてるか」という4項目を各6件法にて）、開業医・多職種間の連携の頻度（「医師から多職種への報告」など13項目を各4件法にて）等を尋ねた。本報告では、対象を開業医に限定し、2つのプログラムの受講者の受講前後での回答の変化を比較検討した。</p> <p>【結果】受講前後の回答が得られた開業医11名（8.0日版6名、2.5日版5名）を分析対象とした。在宅医療に対する意識については、11名中1名が、4項目のうち1項目についてのみ（「在宅医療をやっていけそうだと思うか」）、回答がネガティブに変化したものの、それ以外は全て維持ないしポジティブな回答の変化がみられた。多職種との連携の頻度については、個人差・項目間の差が大きく、一貫した関連は見出しにくい状況であった。</p> <p>【考察】本研修の受講により、在宅医療に対する意識は8.0日版と2.5日版の違いによらず、維持ないし前向きに変化することが確認された。2.5日版により比較的簡易な形で開業医に対する動機付けの効果を得ることができる可能性がある。ただし、現時点では分析対象が少なく、中長期の評価も行われていないため、継続的検討が必要である。</p>